

市町村名	座間味村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	座間味村海域安全隊事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24年～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						Ⅲ-1-(1)	
事業内容	村内指定の3ビーチにおいて、観光トップシーズンから修学旅行受入期間中、海洋事故防止及び安全確保を図るためライフセーバー員等を配置する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,000	10,000	15,668	12,000	
		(b) 予算現額	10,000	10,000	7,500	12,000	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 8,168	0	
		(d) 繰越額	—	0	0	0	
		A. 計 (b+d)	10,000	10,000	7,500	12,000	
		B. 執行済額	10,000	10,000	7,030	12,000	
		うち交付金充当額	8,000	8,000	5,624	9,600	
		次年度繰越額					
		執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%	93.7%	100%	
	予算の状況の説明	事業計画どおり執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ライフセーバーの員等各ビーチ(古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチ)2名体制の配置 期間 GW期間 7月～10月	目 標	(4～5月週末配置 6～10月常駐配置)	(5月～10月常駐配置)	(実施)	(GW期間 7月～10月)	
		実 績	8～10月(常駐配置)	4月26日～11月常駐配置	一部実施	4月25～10月配置	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	村内マリン事業者がビーチパトロール合同会社を設立し、平成27年4月25日～10月31日まで、常駐配置をおこなった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	海水浴客等の海洋事故防止と安全確保	目 標	()	(3ビーチライフセーバー配置)	(3ビーチライフセーバー配置)	(海洋事故防止と安全確保)	()
		実 績		配置	5/2～5/6 8/1～10/31配置	実施	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	村内3ビーチ(古座間味ビーチ、阿真ビーチ、北浜ビーチ)において平成27年4月25日～10月31日の間ライフセーバー等を配置し、海水浴客等の海洋事故防止と安全確保を実施した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光トップシーズンから村内ビーチへ事故防止と安全確保のため昨年度に引き続きライフセーバー員を配置した。 4月末から10月の常駐配置及び国立公園に指定されたことから観光客が増加し、ライフセーバー員等の増員を行い対応したが、サンゴの破壊等が見受けられた。 また、配置期間中は入水前に安全確認やサンゴへの配慮等きめ細かな対応をおこなった。 今後も引き続き安全安心な海水浴をPRをしていく必要がある。	ライフセーバー員の人材が全国的にも不足している現状のため、村内での人材育成が必要である。 観光客が増加し、安全確保(海難事故ゼロ)のためには、ライフセーバー員の質の向上および、人材確保・育成が必要である。 配置期間中は入水前に安全確認やサンゴ等への環境への配慮等きめ細かな対応を環境省と連携して行っていく必要がある。
今後の取り組み方針		
H28年度は水難事故ゼロを目標に、関係機関と連携し人材の確保及び水難救助講習会などを開催し村内人材の育成に努め安全安心な海水浴場にするため安全体制の構築を図る。 また、サンゴの保護のため観光客へ村営船舶での張り紙やHP等で事前に周知し引き続き入水前の環境への配慮の指導も行うことで、保全しているサンゴの保護にもつなげることとする。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>12,000</td><td>12,000</td><td>9,600</td><td>2,400</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,000	12,000	9,600	2,400	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,000	12,000	9,600	2,400	0										
座間味村 12,000千円 委託 12,000千円 (4/25～10/31) 合同会社座間味ビーチパトロール 12,000千円 業務内容(3ビーチ) ・監視、パトロール ・事故防止のための安全指導、環境保全指導 ・遊泳禁止条件、禁止区域での警告、指導 ・事故発生時の救助活動 ・痛病者に対する応急処置														
資金使途の流れ、検・評価目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は資格等で選定しており、また水難救助という特殊性から妥当であったと考えている。 ○期間、人数から鑑み適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名													
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	1-②		座間味村がんばる観光支援事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-ア				
									観光リゾート産業の振興				
担当部課名	産業振興課		事業実施 (予定)年度		平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所		Ⅲ-1-(1)				
事業内容	観光客誘致とリピーター確保のため、既存イベントの強化拡充及び県内外周知活動、県外アミューズメント施設での誘致活動等を実施し、県内外へ広くPRする。												
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()												
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	14,227		1,500		29,674		17,000				
		(b)予算現額	14,227		8,119		29,674		17,000				
		(c)増減額(b-a)	0		▲ 6,881		0		0				
		(d)繰越額	—		—		—		—				
		A. 計(b+d)	14,227		8,119		29,674		17,000				
	B. 執行済額		14,227		8,119		28,397		11,823				
	うち交付金充当額		11,381		6,495		22,718		9,458				
	次年度繰越額												
	執行率(%) (B/A)		100.0%		100.0%		95.7%		69.5%				
予算の状況の説明		不用額5,177千円については精算時における各種イベント実行委員会(補助事業)への補助確定額が当初予算より低かったためである。 また、県内外PR事業については、昨年に引き続き東京都及び新規愛知県にて開催した。											
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)			達成状況									
				27年度		28年度		29年度		30年度			
	各種イベントの支援(5件)	目 標	(イベント支援5件)	()		()		()		()			
		実 績	イベント支援3件										
	県内外PRイベントの実施(2カ所)	目 標	(イベント実施2箇所)	()		()		()		()			
		実 績	イベント実施2箇所										
達成状況説明	県内外イベントの実施についてはイベントを充実・拡充し開催したことにより、観光客及び参加者等の増加がみられ、数値も達成した。 各種イベントの支援についてはイベント実行委員会から申請が無かった為、イベント支援件数が目標に達していない。 県外PR活動として、東京都のしながわ水族館及び兵庫県須磨海浜水族園の2箇所でパネル展を実施。												
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)			基準値 (年度)		25年度		26年度		27年度		目標値 (年度)	
	ホエールウォッチングフェスタ実施(7000人)	目 標			(観光協会へ補助)		(12000人)		(7000人)				
		実 績			補助		14873人		13494人				
	ヨットレース:参加艇35艇(500人)	目 標			(観光協会へ補助)		(350人)		(35艇 500人)				
		実 績			補助		365人		35艇 504人				
	座間味島祭り参加者増、周知強化(800人)	目 標			(観光協会へ補助)		(500人)		(800人)				
		実 績			補助		511人		823人				
	サバニレース:参加40艇(700人)	目 標			(観光協会へ補助)		(700人)		(40艇 700人)				
		実 績			補助		702人		41艇 714人				
	慶留間祭り参加者増、周知強化(300人)	目 標			(観光協会へ補助)		(300人)		(300人)				
		実 績			台風により中止		台風により中止		台風により中止				
	県外水族館等でのPR活動の実施	目 標			(パネル展の開催)		(4回)		(実施)				
実 績				東京都しながわ水族館にて開催		2回 東京都(しながわ水族館) 兵庫県(須磨海浜水族園) にて開催		実施					
進捗状況説明	イベントを充実・拡充し開催したことにより、観光客及び参加者等の増加がみられ、数値も達成した。 慶留間祭りについては、台風により中止となり、実施できなかった。 また、県外PR活動として、東京都のしながわ水族館及び兵庫県須磨海浜水族園でのパネル展を実施。												

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	誘客のために既存イベントの拡充、県外PR活動の実施を行った。 各種イベントについては、直接各実行委員会に補助金を交付するようにしたため、申請手続き等で困惑させてしまった。 慶留間祭りについては、台風接近にともない中止となっている。 インバウンド対策を行い外国人も容易に参加できる仕組みを構築する必要がある。 イベント広報についてはSNSを活用し、効果的に広報できた。 県外PR活動については、ターゲットを絞っているため、地方都市での開催も視野に入れる必要がある。	各種イベントに関しては、誘客のための広報宣伝方法を紙媒体だけではなく、引き続きSNSなどでの紹介を強化することで、観光客の増加につなげる。 補助金に関する説明会を開催各イベント実行委員会に周知徹底し補助金交付する。慶留間祭りのように天候等で中止する場合延期日を設ける等の事前策を設けてもらう。 県外PR活動については、地方都市での開催も含め検討していく、関西圏、関東圏だけではなく、北関東等、地方都市開催も視野に入れ、広く座間味村を知ってもらう。
今後の取り組み方針		
イベントについては、引き続き各種広告物の多言語化によるインバウンド強化および広報宣伝方法を紙媒体だけではなく、SNSなどでの紹介を強化し観光客の増加に向けて継続していく。 県外PR活動については、関東、関西圏の水族館を中心に取り組んできたが、幅広い層をターゲットにPR活動を行い、誘客に繋げる。開催地も北関東地方等も視野に入れ検討する。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		11,823	11,823	9,458
				市町村負担金
				2,365
				交付対象外経費
				0
座間味村 11,823千円 補助金 2,834千円 委託料 8,989千円 「各実行委員会へ補助」 2015ホエールウォッチングフェスタ実行委員会 第16回サバニ帆漕レース I LOVE座間味実行委員会 (株)ブレインワークス 4,989千円 公益財団法人 名古屋みなと振興財団 4,000千円 しながわ水族館 H27年12月16日～平成28年3月20日 名古屋港水族館				
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県外PR委託事業は本村観光大使が所属する県外事業者と随意契約をし、企画運営において、座間味村、及び県外の事に精通している観光大使がかかわることで、本村に見合ったPRになり適切であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は作業規模に見合った範囲内で設定しており妥当である。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である各イベント実行委員会は3割以上負担しており事業内容や事業目的から判断して妥当であると考え。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	

市町村名	座間味村						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	座間味村観光受入拠点事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	H24～H33	沖縄振興基本方針該当箇所	離島の特色を生かした産業振興と新たな展開 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	年中無休の観光案内業務とタイムリーな観光情報発信及びマリンスポーツ事業者や民宿事業者への取り次ぎ案内などをスムーズに行い、外国人を含めた観光客誘客に向け、企画立案と事業展開を実施する観光協会へ支援を行い観光客の誘客と満足度向上を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	20,000	19,320	19,755	16,000	
		(b)予算現額	10,000	13,770	19,755	16,000	
		(c)増減額(b-a)	▲ 10,000	▲ 5,550	0	0	
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	10,000	13,770	19,755	16,000	
	B. 執行済額		10,000	13,770	19,000	13,489	
		うち交付金充当額	8,000	11,016	15,200	8,061	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.2%	84%	
予算の状況の説明		不用額が3,157千円発生しているが、スキルアップ講座未実施や人件費の残による。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	観光案内所開設365日	目 標	(365日)	()	()	()	
		実 績	362日 暴風警報時閉鎖				
	イベント等における観光客誘客PR活動 3回/年	目 標	(3回)	()	()	()	
		実 績	4回実施				
	観光事業従業者向けスキルアップ講座 2回/年	目 標	(開催)	()	()	()	
		実 績	未実施				
	達成状況説明	・案内業務については年中無休で実施し、一昨年開発したノルディックウォーキングインストラクターの養成は行えなかったものの、他アクティビティーとのタイアップツアーの受入を行った。また、村内事業者の質の向上に向け昨年に引き続き、村内民宿事業関係者を集めた意見交換会を開催し現状課題を話し合い質の向上について取組事例等を紹介した。 ・県内外の各種イベントへ参加し誘客PR活動を4回実施した。 ・観光事業従事者向けスキルアップ講座については、人員不足及び日程調整ができず未実施となり未達成となった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度
観光案内所利用者数 延べ8万人(H26年度7万人)		目 標	()	(8万人)	()	()	()
		実 績		9万5千人			
イベント来場者数 1万人		目 標	()	(1万人)	()	()	()
		実 績		5万人			
入域観光客数 9万5千人(H26年9万人)		目 標	()	(9万5千人)	()	()	()
		実 績		10万2千			
観光事業従業者向けスキルアップ講座参加者数 30人(H26年14人)		目 標	()	(30人)	()	()	()
		実 績		未実施			
進捗状況説明		・年中無休の観光案内業務を実施し、国立公園化以降、増え続けていた入域観光客数及び案内所利用者数が大きく伸び目標を達成した。 ・県内外の大きなイベントでの誘客PR活動を行ったため目標である1万人を大きく上回った。 ・観光事業従事者向けスキルアップ講座については、人員不足及び日程調整ができず未実施となり未達成となった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	増加する観光客の満足度、利便性向上のため、案内窓口を開設し丁寧な案内業務を行った。 国立公園に指定され、観光客が増加する中、今までの欧米系観光客を含め、アジア系の旅行者も増加しており、引き続きインバウンド受入れ体制(窓口案内業務及び村商工事業者)の更なる強化が課題となっている。 冬場(閑散期)に関してもホエールウォッチング客が増加しているが、海上時化時の船舶欠航などの対策も必要となっている。	引き続き、増加するアジア系観光客も視野に入れ中国語や韓国語等の語学教室の開催を検討し案内業務を含めた村全体の受け入れ体制の強化及びパンフレット、チラシ等での周知充実を図る。 また、船舶欠航時の観光客への案内業務や空路との取次案内の強化が必要となっている。
今後の取り組み方針		
年中無休で丁寧な観光案内業務を継続すると同時に接遇の向上に取り組み、インバウンド受入れ体制の強化のため積極的にアジア系講座を実施することで、事業者の意識と質を高める。また、閑散期(冬場)の観光客誘致のため同協会だけではなく地元観光事業者及び旅行会社等と積極的に意見交換を行い、アンケートによる意見も取り入れ開発する必要がある。 また、お土産品や飲食面での強化が必要となっているため、行政や商工会等との連携を推進し観光客の満足度強化に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>13,489</td><td>10,077</td><td>8,061</td><td>2,016</td><td>3,412</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,489	10,077	8,061	2,016	3,412
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,489	10,077	8,061	2,016	3,412										
座間味村 13,489千円 補助金 10,077千円 → 一般社団法人 座間味村観光協会 10,077千円 協会負担分(交付対象外経費) 3,412千円 ・窓口案内業務(年中無休)(案内、電話対応、メール対応、) ・情報発信(HP等、マスコミ、メディア対応)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的を達成するに当たり、村内においては当法人しかなく妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である観光協会は総事業費の約2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	座間味村美ら島づくり花の森整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-イ	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	花と緑あふれる県土の形成 第三章 10-1	
事業内容	国立公園である本村の自然を生かした魅力ある観光地形成と集落内の景観促進のため、座間味・阿嘉・慶留間島の実施設計を策定し、植栽整備を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,602	20,541	24,000	44,000	
		(b) 予算現額	10,602	20,541	24,000	44,000	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	10,602	20,541	24,000	44,000	
	B. 執行済額		10,500	20,290	23,981	43,960	
	うち交付金充当額		8,400	16,232	19,184	35,168	
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率 (%) (B/A)		99.0%	98.8%	99.9%	99.9%	
予算の状況の説明		40千円の不用額が発生しているが、設計委託による入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度
	阿嘉・慶留間区の実施設計の策定	目 標	(実施設計策定)	()	()	()	()
		実 績	実施設計策定				
	座間味区(座間味港・高月山周辺) 高木・低木・草花植栽	目 標	(植栽工事着手)	()	()	()	()
		実 績	植栽工事完了				
	阿佐区(ウハマコテージ) 高木・低木植栽・花のコンテナ	目 標	(植栽工事着手)	()	()	()	()
		実 績	植栽工事完了				
	阿嘉区(港周辺) 高木・低木植栽・花のコンテナ	目 標	(植栽工事着手)	()	()	()	()
		実 績	植栽工事完了				
達成状況説明	村全域サイン計画の意見交換会を行い、地域の意見を取り入れたサイン実施設計の策定を行った。 座間味区においては中低木ツツジ109本、、ブッソウゲ177本・127.5㎡、コバティシ3本を植栽、設置した。 阿佐区においては中低木シャリンバイ408本、ブッソウゲ80本、コバティシ6本、ピロウ2本を植栽、設置した。 阿嘉区においてはコンテナ25個(ブーゲンビリア、ブッソウゲ、クロトン)設置、村道沿い・ヒカンザクラ、ケラマツツジ324本の植栽を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	各区の植栽実施	目 標	()	(植栽の実施)	()	()	()
		実 績		植栽の実施			
	H27年から観光協会、港にアンケート調査実施(満足度 H27年度50%)	目 標	()	(満足度50%)	()	()	()
		実 績		未実施			
	進捗状況説明	各地区において植栽を実施した。 区長会等で地域の名所及び名前の確認を行い実施設計の策定をおこなった。 サインの設置場所と数量(座間味43基・阿佐13基・阿真6基:62基)(阿嘉:23基)(慶留間:7基) アンケート調査実施については、アンケートの作成が遅れ未実施となり目標が達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・観光誘致と受入体制の整備のため国立公園である本村の自然を生かした魅力ある景観形成を促進するため、港周辺や、公園等の整備をおこなった。 ・本村は主要3島からなる島嶼村であり、3島(5地区)の自然景観に合致した取り組みが求められている。 ・植栽後の維持管理については、住民と協議していく必要がある。 阿嘉地区・慶留間地区においてのシカ対策が、住民からの一番懸念されているため、検討が必要である。 ・座間味島の整備が進み、ターミナル等へ事業の効果を検証する必要がある。	・植栽後の維持管理については、どのような形で行えばよいのか、住民と協議する必要がある。 ・意見交換会での住民からの意見を尊重し、要望等に合うように進める。 ・シカ対策は、調査及び住民の意見等を聞きながら、植栽種類の選定や対策の施策を引き続き行っていく必要がある。 ・事業効果を検証するため、アンケートを実施していきたい。
今後の取り組み方針		
区長会での地域の設置場所等の確認を調整して実施していく。 平成28年度は平成27年度に行った村全域の実施設計に基づき看板の設置場所を考慮し工事を行う。 台風は毎年のようにくるので、住民及び地域の組織や事業者と協議を行って維持管理をおこなっていく。 事業効果確認のため、アンケートの実施を行う。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		43,960	43,960	35,168
				市町村負担金
				8,792
				交付対象外経費
				0
座間味村 43,960千円 委託料 9,990千円 側トピカル・グリーン設計 9,990千円 村全域のサイン計画委託業務 工事請負費 33,970千円 株式会社沖縄底芸 33,970千円 阿嘉島植栽工事請負業務				
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については委託、工事ともに指名競争入札を行っており妥当であるとする。 ○予算規模については不用額は40千円であり適正であったと考える。 ○費目・使途は精算時点で検査を実施し、必要なものであった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥	ダイバーズ・エッグ・プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章3-(2)-イ	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26年～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	ダイビング観光客誘客と若年層のダイバーを育てるため、閑散期に(冬場)トライアルプログラム実証調査事業(内容:体験ダイビング)としてダイバーのタマゴを育てその効果や調査を行うことにより、今後のダイビング産業の活性化につなげる。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,000	10,000			
		(b) 予算現額	18,000	10,000			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	18,000	10,000			
	B. 執行済額		16,718	7,687			
	うち交付金充当額		13,374	6,150			
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		92.9%	76.9%			
予算の状況の説明		不用額2,313千円については、目標数500名に達しなかったことによる委託料の残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	25年度	26年度	27年度	
	体験ダイビング 受入人数 500名	目 標	(500名)	()	()	()	
		実 績	247名				
	アンケート調査 500件	目 標	(500件)	()	()	()	
		実 績	247件				
	プロモーション活動	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
	達成状況説明	実証調査としてこのプロジェクトに参加した247名のアンケートを実施した。アンケート結果では満足度が高く、ダイビングへの「きっかけ」をつくることができた。また、体験ダイビング利用者へきめ細やかな指導をし、接客することで地元事業者の接客対応向上にも繋がった。 広報の実施については郵便局やコンビニへのポスター掲載及び那覇市内飲食店や新聞折り込みでのチラシ配布を行った。体験ダイビング受入人数については、海況の悪化や申し込み後のキャンセル等もあり影響もあり目標人数を達成することができなかった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	26年度	27年度
体験ダイビング後、①また来たいと答えた10～30代 90%、②ライセンスを取りたいと答えた10～30代 70%		目 標	()	(①90% ②70%)	()	()	()
		実 績		①92.4% ②70%			
座間味村ダイバーズエッグクラブ会員数800名		目 標	()	(800名)	()	()	()
		実 績		900名			
進捗状況説明		10月より広報宣伝活動を実施したが予約数356名中247名の実施となり、目標数へは届かなかった。 アンケートについては、有効回答247名となり、また来たいと答えた方が92.4%、ライセンスを取りたいと答えた10～30代が70%と高かったことから、ダイバーの予備軍へダイビングの良さを知ってもらおうきっかけとなった。 宿泊に繋げる事業内容を行うことで、Cカードの取得及び村内事業者の質の向上を行うことで、消費額をあげる仕組みづくりを行うことで活性化を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ダイビング年齢が高齢化していることや、ダイビング客が落ち込んでいることから、ダイバーのタマゴを育て今後のダイビング産業の活性化を図る目的にて、実証調査を行った。 目標数の500名に達しなかったが、アンケート調査結果によると、昨年同様ダイビングに興味があるとの回答が95%で、ダイビングをしなかった理由としては「きっかけ」がなかったとの回答が多く、関心層への開拓ができたと推測される。一方で閑散期(冬季)実施のため寒くなると参加数に影響してると思われる。 目標数を達成し、誘客に繋げるため事業期間を見直し、運営面(申込受付、受入体制面、広報面、ターゲット層)での課題がある。	事業実施にあたって、十分な事業期間を設け、効果的な広報宣伝活動を行う必要がある。 また、ターゲット層を沖縄県内に絞っていたが、県外客を視野に入れた、より感動をあたえメモリアル感が残る施策や、宿泊へつなげ経済効果につながる仕組みを作り、情報発信の徹底に努めダイビング産業の活性化に取り組む必要がある。
今後の取り組み方針		
目標の500名を達成するため、ターゲット層の見直しを行い、効果的な広報、募集をおこない、アンケート調査を踏まえメモリアル感のある企画内容(記念ダイブ)及びアンケート内容の充実を図り更なるダイビングの魅力を発信する。また、活性化を図るうえで、Cカードの取得へ繋げるため地元事業者および関係機関と閑散期の事業展開を検討していく。 この事業を閑散期に行うことで、村ダイビング事業者も初心者への親切丁寧な指導ができました、利用者にとって体験ダイビングをとおしてリピーターとなってもらい、今後のダイビング産業活性化に取り組む。 3年継続事業の最終年となることから、今までのアンケートの分析と追跡調査を行い今後のダイビング産業の戦略を追求する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,687</td><td>7,687</td><td>6,150</td><td>1,537</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 座間味村 7,687千円 → 委託料 7,687千円 → 株式会社 宣伝 7,687千円 委託業務・体験ダイビング 受入人数 500名 ・アンケート調査 ・プロモーション活動 (ラジオ広報、フリーペーパー 1回、新聞広告 1回、新聞折り込みチラシ 50000部、ポスター 1000部、チラシ 5000部、) ・アンケート分析、実績報告等					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,687	7,687	6,150	1,537	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,687	7,687	6,150	1,537	0										
資金の 使途の 流れ、 検 査 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は資格等で選定しており、また水難救助という特殊性から妥当であったと考えている。 ○期間、人数から鑑み適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村					
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-⑦	阿嘉漁港ターミナル機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25年～27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容	観光客受入体制の整備として村の玄関口である阿嘉漁港ターミナルに全天候の屋根付き歩道を整備し、快適な観光地を形成する。					
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	25年度(繰越)	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	48,950	—	41,678	
		(b) 予算現額	48,950	—	41,678	
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	
		(d) 繰越額	—	44,225	—	
	A. 計 (b+d)		48,950	44,225	41,678	
	B. 執行済額		4,725	43,616	41,459	
	うち交付金充当額		3,780	21,316	33,091	
	次年度繰越額		44,225	—	—	
	執行率 (%) (B/A)		9.7%	98.6%	99.5%	
予算の状況の説明		当初の工事費より95,066円増額したが、予算内で変更分は村単費で対応した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況			
			27年度			
	屋根付き歩道の整備 (L=25.5m)	目 標	(土木工事・基礎工事・舗装工事・路盤工事・アルミ屋根本体設置)	()	()	()
		実 績	土木工事・基礎工事・舗装工事・路盤工事・アルミ屋根本体設置			
		目 標	()	()	()	()
		実 績				
達成状況説明	土木工事・基礎工事・舗装工事・路盤工事・アルミ屋根本体設置を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度		目標値 (年度)
	雨天時や炎天下でも観光客が快適に利用できる受入態勢を強化する。(L=25.5m)	目 標	()	(工事請負業務)	()	()
		実 績		工事請負業務		
		目 標	()	()	()	()
		実 績				
	進捗状況説明	梅雨時期、夏のトップシーズンに向け住民、観光客が、雨天時や炎天下でも天候に左右されない快適な玄関口として安心・安全に乗船・下船できるような環境づくりができた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・観光客や住民が、フェリー及び高速旅客船の乗降り待ちの雨天時には全身、荷物が濡れている状態で、次の場所に移動しなければならなかったり、日射病で救急に運ばれる人も出る状態であった。	・観光客受入体制の整備として村の玄関口である阿嘉港ターミナルに全天候型の屋根付歩道を整備し、観光客、住民が快適に、フェリー及び高速旅客船の乗降り待ちが出来るようになり、快適な観光地形成を構築できた。
今後の取り組み方針 住民や関係機関などの意見交換を行いながら、改善等が発生したら速やかに対処し、受入体制の質の向上に努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>41,459</td><td>41,364</td><td>33,091</td><td>8,273</td><td>95</td></tr> </table> 座間味村 41,364千円 工事請負費 41,364千円 オキアス建設株式会社 41,364千円 阿嘉漁港ターミナル機能強化事業 交付対象外経費 95千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	41,459	41,364	33,091	8,273	95
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
41,459	41,364	33,091	8,273	95										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当だったと考えている。 ○予算規模については、当初の工事費より95千円増額したが、予算内であり適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	座間味村鮮魚美食事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	農林水産業の振興		
					Ⅲ-1-(6)		
事業内容	村内における漁獲物の付加価値向上を図る為、生産者の顔が見える販売に取組み、地産地消を推進する。H26年度に開設した阿嘉鮮魚直売所及び、座間味鮮魚直売所の2カ所で直接販売に取り組む。また、魚食普及の為、稚魚の放流を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	22,481	6,166	14,961	4,642	
		(b) 予算現額	22,481	6,166	14,961	4,642	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		22,481	6,166	14,961	4,642	
	B. 執行済額		21,783	5,848	13,415	2,265	
	うち交付金充当額		17,426	4,678	10,732	1,812	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率 (%) (B/A)		96.9%	94.8%	89.7%	48.8%	
予算の状況の説明		不要額2,377千円においては、額の確定検査時において、補助金の一部を対象外として減額したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度				
	①鮮魚販売所における直接販売2カ所	目 標	(2カ所)	()	()	()	
		実 績	2カ所				
	②稚魚の放流、成魚の試食会 1回	目 標	(1回)	()	()	()	
		実 績	0回				
達成 状 況 説 明	・鮮魚販売所における直接販売2カ所については目標にしていた2カ所設置し、観光客や、住民のニーズを把握し、島の魚を利用した刺身や、丼物を提供した。(例: マグロ丼・カジキフライ丼等) ・稚魚の放流、成魚の試食会1回については、漁業者や、地元の住民の日程があわず実施を見送った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度			目標値 (年度)
	①27年度の鮮魚直売所の売り上げ目標 阿嘉直売所150万円 座間味直売所450万円 計600万円(参考H26年351万円)	目 標	()	(阿嘉150万円 座間味450万円)	()	()	()
		実 績		阿嘉120万円 座間味700万円			
	②稚魚の放流、成魚の試食会 参加者 50人 (地域の人を集めイベントを行う)	目 標	()	(放流1回 試食会1回)	()	()	()
		実 績		実施なし			
	進 捗 状 況 説 明	・27年度の鮮魚直売所の売上目標については昨年に続き、直売所を強化することにより、住民、観光客、民宿事業所への安定的な生産と供給体制が確立できた。平成27年は座間味村も観光入域数が初めて10万人を突破し、沢山の観光客に利用してもらい、多くの収益を得ることができた。しかし阿嘉直売所については目標には届かなかったが、それに近い売り上げを達成した。 ・稚魚の放流、成魚の試食会については、漁業者や、地元の住民の日程があわず実施を見送る形となり目標を達成することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光客の増加に伴い、土日の窓口を開けることにより、売上目標を上回ることが出来た。安定して今年度も売り上げを維持していく必要がある。 大型のコンテナが5個しかなく、大型魚の出荷の際に漁獲物を切断して送らなくてはならず、鮮度を保持したままでの出荷が出来ていない状況であり、大型のコンテナが必要である。	大型コンテナの購入をし、出荷のしやすい環境を作る。 今年度も売り上げを伸ばす為に、積極的に島の鮮魚をアピールし、漁業者のモチベーションを高めることにより、本事業の目的である地産地消のシステムの構築に資する。
今後の取り組み方針		
観光客や住民に地元産の鮮魚や加工品を安定的に提供し、島内における魚食普及に向け、内容を改善しながらH29年度までに支援を継続する。 大型コンテナの購入をし、漁獲物を切断せずに丸ごとカジキやマグロの鮮度を保持したまま村外へのお荷をスムーズに行えるよう取り組む。 継続して人材育成をし、新しいお昼のメニューを開発し直売所の販売の強化をする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,517</td><td>2,265</td><td>1,812</td><td>453</td><td>252</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,517	2,265	1,812	453	252
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,517	2,265	1,812	453	252										
座間味村 2,265千円 補助金 2,265千円 座間味村漁業協同 2,265千円 座間味村漁業協同組合負担分 (交付対象外経費)252千円 (直売所の強化) 販売加工・人権費														
資金使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、村内においては当法人しかなく妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は事業内容にあっており適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者である座間味村漁業協同組合は、1割を負担しており、事業内容や他補助の負担割合から判断し、妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	・事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出などの書類により確認しており、適正であった。											

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	座間味村サンゴ(海の花)育成・植付事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興	
						Ⅲ-1-(6)	
事業内容	サンゴ礁海域の回復に向け、地元漁協職員を臨海研究所へ派遣し、サンゴの種苗の養殖と育成及び海への植付に係る生育活動のノウハウを学び、人材を育てるための活動の支援を行う。また、村所有の種苗センターを活用することで種苗の生産本数の増加を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,700	6,388	5,742	8,766	
		(b) 予算現額	4,230	6,388	5,742	8,766	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 470	0	0	0	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
	A. 計 (b+d)		4,230	6,388	5,742	8,766	
	B. 執行済額		3,731	5,771	5,202	5,364	
	うち交付金充当額		2,686	4,616	4,161	4,291	
	次年度繰越額		0	0	0	—	
	執行率 (％) (B/A)		88.2%	90.3%	91%	61.2%	
予算の状況の説明		不用額3,402千円は、種苗センター管理費の実績減による補助金の残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
				27年度			
	・サンゴが減少、少ない海域への植付を実施 2回	目 標	(植付実施2回)	()	()	()	
		実 績	植付実施3回				
	・種苗の生産の拡大 2,000本	目 標	(2000本)	()	()	()	
		実 績	800本				
達成状況説明	種苗の植付については、場所を選定し年度内に3回植付をすることができ目標達成する事ができた。種苗の生産については、対象とするサンゴの採卵が少数だったため、また天候不良もあり採卵の実施も予定通りにできない事もあり、目標達成することができなかった。今年度途中より、種苗センターの利用を開始しているので、海上イクス、種苗センターで育成をしながら効率が良い種苗生産の仕組みを追及する必要がある。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度			目標値(年度)
	・派遣職員の植付技術の習得(人材育成プログラムにより植付技術の習得)	目 標	()	(植付技術の習得)	()	()	()
		実 績		年3回の植付で技術習得			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	当初、予定していた年2回の植付研修を、3回行う事ができ漁協職員に植付の技術を習得させることができた。植付後の育成管理、保全を今後強化し、サンゴ礁の面積を広げていくことが求められる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	前年度は生産し植付できる種苗を2,200本育成することに成功したが、対象としたサンゴの採卵が少数であり、天候不良等も重なり、今年度は大幅に減少した。自然環境が変わることで、目標達成等に大きく関わってくる事になるので、安定した種苗生産の本数を確保する方法を確立する事が求められる。 また、植えつけたサンゴを長く生かし育てるため、植付するエリアを関係機関と協議し緻密に計画を練る必要がある。	今年度途中より、種苗センターを活用しているので、自然環境に関わらず育成管理を行いサンゴの種苗の本数を増やす技術改良を目標とする。 引き続き関係機関と植付するエリアを緻密に協議し、安定した種苗の本数の確保においても大量生産の技術改良を目標としながら環境の良質を図る。
今後の取組み方針		
28年度以降においては植付技術、管理技術を習得し自然環境に関わらず多量に種苗を生産できるよう技術向上に努める。関係機関と協議し、育てた種苗が長く生きよう植付エリアを様々な角度から検証する。 これまでの研修先であった「阿嘉島臨海研究所」から離れ、「種苗センター」において有性生殖及び無性生殖の方法でサンゴの種苗生産を実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,960</td><td>5,364</td><td>4,291</td><td>1,073</td><td>596</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,960	5,364	4,291	1,073	596
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,960	5,364	4,291	1,073	596										
座間味村 5,364千円 補助金 5,364千円 座間味村漁業協同 5,364千円 人件費、研修委託の補助 座間味村漁業協同組合負担分 (交付対象外経費)596千円														
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、村内においては当法人しかなく妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は人件費、研究委託費等必要な経費であって妥当な金額である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者である座間味村漁業協同組合は1割を負担しており、事業内容や他補助の負担割合から判断し妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出などの書類により確認しており、適正であった。											

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	座間味村島ちゃび解消移動手段安定化対策事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第2章-3-(11)-ウ			
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島における定住条件の整備		
事業内容	III-9						
事業内容	離島交通ネットワーク手段の確保として、船の欠航時やダイヤ変更時に、チャーターヘリコプターを利用した場合、運賃の一部を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	5,985	8,700	8,700	
		(b)予算現額	4,000	8,700	8,700	8,700	
		(c)増減額(b-a)	2,000	2,715	0	0	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
		A. 計(b+d)	4,000	8,700	8,700	8,700	
	B. 執行済額		3,660	6,060	5,460	4,140	
	うち交付金充当額		2,928	4,848	4,368	3,312	
	次年度繰越額		—	—	—	—	
	執行率(%) (B/A)		91.5%	69.7%	62.8%	47.6%	
予算の状況の説明		不用額が4,560千円発生しているが台風の影響を受けるためフライト数が減少し不用額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	村営船舶航路欠航等によるヘリコプターチャーター支援	目 標	(支援)	(支援)	()	()	
		実 績	支援	支援実施			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	慶良間空港～那覇空港間のフライト数138回分の運賃一部補助を実施した(1フライト60,000円のうちその半額の30,000円を補助)。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	那覇空港～座間味村フライト数290回	目 標	()	(195フライト)	(290フライト)	(290フライト)	()
		実 績		202フライト	202フライト	138フライト	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	慶良間空港～那覇空港間のフライト数138回分の運賃一部補助を実施した。台風や荒天時の航路欠航時における補助であるため天候の影響等により利用回数の増減が左右されるため目標達成が出来なかった。今後も天候の影響を受けることを考慮し目標値等を検討する必要がある。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・台風や荒天時の航路欠航時における補助であるため天候の影響等を考慮しながら事業を実施しなければならないが、他市町村でも同様の事業を行っている事からアイラス社の機材が足りず、必ずしも需要を満たす状況にはない。 ・航路欠航時の補助の実施について利用者に対して周知をいかにして行うかを検討していく必要がある。 ・慶良間空港離発着であり、座間味島からの利用者にとっては、島間の船舶移動と港用者増のため昨年度同様慶良間空港～阿嘉島間の移動手段の検討が必要	・座間味村のホームページやSNS等を利用して、航路欠航時の運賃一部補助の周知をいかに効率的に行うか検討する必要がある ・慶良間空港～阿嘉島間は、昨年度までは民間タクシーの1事業者が移動手段を担っていたが現在運航しておらず利便性の向上を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
・座間味村観光協会等とも連携し、補助制度の効果的な周知方法はないのか検討を行い広報していく。 ・慶良間空港～阿嘉島間の利便性の向上の為、予約の集約化について引き続き観光協会等と検討を進める。 ・民間タクシーの撤退により移動手段の確保に向け関係機関と調整を進める必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,140</td><td>4,140</td><td>3,312</td><td>828</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	4,140	4,140	3,312	828	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
4,140	4,140	3,312	828	0										
座間味村 4,140千円 → 補助金 4,140千円 → アイラス航空株式会 社 4,140千円 船舶欠航時ヘリコプターチャーター 1フライトに対する運賃の一部支援														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○県内においてヘリコプターによる輸送業務を行う事業者は当事業者しかなく妥当である。 ○不用額が3,240円発生しているが悪天候の影響で運航を停止した経緯もあり、利用数の推移から予算規模は適正であると考える。 ○受益者負担は村の高速船の片道運賃となるよう設定されていることから妥当である。 ○事業の使途については実績報告、額の確定時においての支出等の書類により確認しており、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村									
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	3-②		座間味村村内運航に係る対策事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章-3-(11)-ア	
担当部課名	産業振興課			事業実施 (予定)年度	平成24年～33年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	交通・生活コストの低減	
事業内容	離島と離島を結ぶ海上交通手段として、小型船舶の資格を有する賃金職員2名を採用し、座間味島と阿嘉島間を定時運航、渡嘉敷村と座間味村の諸島間新規運航を実施し、離島交通の足の確保と観光振興を図る。									
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,014	3,468	3,468	3,468				
		(b) 予算現額	1,886	3,468	3,473	3,468				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 128	0	5	0				
		(d) 繰越額	—	—	—	—				
		A. 計 (b+d)	1,886	3,468	3,473	3,468				
	B. 執行済額		1,886	3,444	3,410	3,401				
	うち交付金充当額		1,508	2,755	2,728	2,720				
	次年度繰越額		—	—	—	—				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.3%	98.2%	98.1%				
予算の状況の説明		台風などの悪天候により、運休となったことに伴い、不用額67千円が生じた。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)			達成状況						
				24年度	25年度	26年度	27年度			
	定期船運航 座間味～阿 嘉:1日4便 (目標運航1460回)	目 標	(800回)	(1300回)	(1300回)	(1460回)				
		実 績	841回	1403回	1418回	1388回				
	座間味～渡嘉敷:1日2便 (目標運航730回)	目 標	(60回)	(590回)	(590回)	(730回)				
		実 績	32回	373回	468回	504回				
達成 状 況 説 明	台風及び悪天候時の欠航等により目標回数が達成できなかった。 離島と離島を結ぶ海上交通手段としての足の確保及び渡嘉敷村と座間味村の諸島間の運航を展開し、アクセスの充実により観光基盤の向上が図られた。									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)		
	H24 実績 11,983人(7月開始) H25 実績 18,587人 H26 見込 23,571 H27 目標 25,000人	目 標	()	(25000人)	()	()	()			
		実 績	24192人							
		目 標	()	()	()	()	()			
		実 績								
	進 捗 状 況 説 明	目標人数には届かなかったが、おおそは達成できている。 村ホームページなどで周知活動を行い、離島間を結ぶ新たな交通機関として定着してきたことにより利用人数の増加につながってきている								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本年度は通年を通して運航できるような環境を整備してきたが、悪天候などにより運航できない日もあった。 今後の事業展開として、通年運航はもとより、両村を日帰りで観光などができるように運航ダイヤなどを検証し、利用回数の向上に努める必要がある。	本村の那覇～座間味間の船が欠航時の時に渡嘉敷経由で沖縄本島へ移動できるような手段などや陸上交通とのスムーズに連携できるように関係機関(観光協会、商工会、ダイビング協会等)や住民のニーズにあったきめ細やかな運航をするために渡嘉敷村も含めた意見交換会が必要がある。 現在よりも利用しやすい運航ダイヤが無いのか検討し利用客増に努めていく。
今後の取り組み方針		
今年度で事業終了となるが、陸・海・空と連携できるような環境を整備するために住民や関係機関、隣村などとの調整を行いながら、改善等が発生したら速やかに対処し、運航強化をすることで、事業の効果を高め、運行回数、利用者数共に伸ばしていけるように取り組んでいく。 次年度も関係機関などと意見交換を行い、どのようなニーズがあるのか調査をし次年度取り組んできたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,401</td><td>3,401</td><td>2,720</td><td>681</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,401	3,401	2,720	681	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,401	3,401	2,720	681	0										
座間味村 3,401千円 報酬 3,401千円 臨時職員2名 3,401千円 船長人件費														
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、村臨時職員として募集し、面接等を行い職員(船長)を採用しており、妥当である。 村の賃金規定により積算を行っており、予算規模は妥当である。 慶良間内の村民、観光客の足を確保するために要綱を定め事業を実施しているため目的に即していると考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④	座間味村自動車航送運賃低減化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24年～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減 Ⅲ-9	
事業内容	離島住民の利便性向上を確保するため、高額である本島⇄座間味村間のフェリー車両航送に係る運賃の一部を支援し、高い交通コストの改善を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	535	1,870	2,542		
		(b) 予算現額	1,456	3,085	3,100		
		(c) 増減額 (b-a)	921	1,215	558		
		(d) 繰越額	—	—	—		
	A. 計 (b+d)		1,456	3,085	3,100		
	B. 執行済額		1,456	3,083	3,090		
	うち交付金充当額		1,164	2,466	2,472		
	次年度繰越額		—	—	—		
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	99.9%	99.7%		
予算の状況の説明		当初342台程度の補助を予定していたが、利用率の向上により補助申請予想を上回っていることから、予定台数を390台へと変更するため、補助金439千円増額補正を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	自動車航送運賃を低減するための支援	目 標	(支援の実施)	(支援の実施)	()	()	
		実 績	支援の実施	支援の実施			
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	目標台数を上回る395台の自動車航送運賃の低減支援を行った。 4月29台、5月54台、6月34台、7月26台、8月25台、9月19台、10月41台、11月31台、12月49台、1月29台、2月23台、3月35台						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(25年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	支援台数 342台(H25年度実績 223台(7月開始))	目 標	(60)	(60)	(369)	(342)	()
		実 績		223	385	395	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	目標台数を上回る395台の自動車航送運賃の低減支援を行った。 沖縄本島での移動手段の確保、または車検整備における自動車航送運賃低減化を図ることで、離島特有の経済的負担の軽減が図られた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	沖縄本島での交通手段の確保、車検整備などの経済的負担の軽減などを図ることができたが、車検整備における自動車航送については、申請者の名義のみとなっているので、法人名義等を今後、どうするかが問題となっている。 また、車検整備などが2か月前から受検できるようになったことから、現在、1か月前からの申請なので同様に変更するか検討。	今後の経済的負担を軽減させるのを事業者まで拡大するのか検討していく必要がある。 要綱などの改正を検討し、車検整備などを早めに受けれるように住民の利便性を向上していく必要がある。
今後の取り組み方針		
課題に上がった自動車運賃低減補助を事業者まで拡大や車検整備などの沖縄本島への輸送する申請期間が現在1か月前からとなってることから、2か月前から申請や法人などの車両も申請ができるよう、要綱の改正を検討をしていく必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,090</td><td>3,090</td><td>2,472</td><td>618</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,090	3,090	2,472	618	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,090	3,090	2,472	618	0										
座間味村 3,090千円 補助、負担金 3,090千円 航路事業者 3,090千円 フェリー車両航走に係る 運賃の一部支援														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、航路事業者が1事業者しかないため妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は増額があったものの概ね妥当である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者については、5割を負担し実施要項通りの負担割合であり、事業内容からも妥当だと考える。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	座間味村自動車航送運賃低減化事業については実施要綱に定めた目的、額を執行しているので妥当だと考える。											

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤	座間味村海拔表示板等設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成27年～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客受入体制の整備	
事業内容	災害発生時に、住民や地理に不慣れな観光客が迅速かつ安全に避難場所へ移動できるよう、住民、観光客の安心・安全を図るため、海拔表示板や低地から避難所に向けて避難誘導標識を設置する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,702				
		(b)予算現額	5,702				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	5,702				
	B. 執行済額		5,616				
	うち交付金充当額		4,492				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.5%				
予算の状況の説明		不用額86千円は、委託料の入札残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	台帳の作成(海拔現地調査・避難誘導路等の調査など)	目 標	(台帳の作成)	()	()	()	
		実 績	作成の完了				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	村内の各地点における標高を調査し、海拔表示板設置必要箇所の選定と現地調査を実施し台帳を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	村内の海拔の把握	目 標	()	(海拔の把握)	()	()	()
		実 績		海拔の把握			
	海拔表示板等の設置場所記載の台帳の完成	目 標	()	(台帳の完成)	()	()	()
		実 績		台帳の完成			
	進捗状況説明	村内の海拔を把握し、台帳を完成させた。 平成27年度に作成した海拔表示板等の台帳に沿って平成28年度に設置工事を行う。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	現在、国立公園にも指定されている観光地でありながら大きな災害が起きた際に本村を訪れている観光客への海拔表示や避難路の案内が無い状況にあった。 外国人観光客も多く訪れるようになり、外国人観光客にも対応できるような改善が必要である。	災害時に海拔表示板を参考に避難することや避難路の案内板を設置し、更なる安心安全な観光地づくりにするため表示板等を設置する。 外国人観光客に向けた案内となるように多言語化した表示板にする必要がある。
今後の取り組み方針		
平成27年度に作成した海拔表示板等の台帳に沿って平成28年度に設置工事を行う。 設置した案内表示板を広報誌やホームページ等により広報し、広く周知していき避難訓練等にも活用できるようにする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,616</td><td>5,616</td><td>4,492</td><td>1,124</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,616	5,616	4,492	1,124	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,616	5,616	4,492	1,124	0										
座間味村 5,616千円 委託費 5,616千円 新星出版株式会社 5,616千円 座間味村海拔表示板等設置事業に係る委託費														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ・不用額は、入札残であるため、適正であると判断した。 ・費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑥	多用途住宅整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成27年～28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉に おける住民サービスの向上		
事業内容	本村が依頼しているALT等や出向している各種団体職員においては住宅環境が整っていない為、招聘が困難な状況にある。生活の基盤である住宅を整備し、安定した人材の確保を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	11,350				
		(b)予算現額	11,350				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	—				
		A. 計(b+d)	11,350				
	B. 執行済額		11,070				
	うち交付金充当額		8,856				
	次年度繰越額		—				
	執行率(%) (B/A)		97.5%				
予算の状況の説明		予算残額217千円については入札残によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	地質調査の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
	基本設計の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
	実施設計の実施	目 標	(実施)	()	()	()	
		実 績	実施				
	達成 状況 説明	H28年度住宅整備(工事)に向けての設計等の実施(27年度において実施済) 内容:基本設計及び実施設計 施設面積250.92㎡(構造/壁式鉄筋コンクリート造地上2階建て1棟) (建築 機械 電気関係における設計一式)					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度
2LDK4世帯の基本設計・実施設計完了		目 標	()	(基本設計・実施設計の完了)	()	()	()
		実 績		基本設計・実施 設計の完了			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
進捗 状況 説明		次年度(H28年度)の住宅整備に向けた基本設計書等の作成完了。(主な設計/建築関係・機械関係・電気関係)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・次年度 実際の工事(住宅整備)にあたり、住宅密集地にあるため進入路が狭く工事期間中における周辺への騒音・出入りなどへの対応も十分な配慮が必要。 ・離島である為、台風などによる工事への影響等もあるため実際の工事については余裕をもった取り組みが課題となる。	・工事の執行にあたり円滑に実施するため現場等の整理が必要。(進入路が狭いため十分な安全確保を行いつつ前もっての整理が必要) ・住宅完成後の利用について(早期の対象者の確保に努める)
今後の取り組み方針		
H28年度においては住宅整備の実施にあたり、早期の工事発注(契約)を目指し、住宅完成後の早期の入居に向け関係機関との連携を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>11,070</td><td>11,070</td><td>8,856</td><td>2,214</td><td>0</td></tr> </table> 座間味村 11,070千円 委託料 11,070千円 株式会社アート設計 3,078千円 株式会社アート設計 7,992千円 基本設計委託業務 実施設計委託業務					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	11,070	11,070	8,856	2,214	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
11,070	11,070	8,856	2,214	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により選定しているので妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は作業の実施規模を想定して行っており妥当である。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し、必要なものであったと判断する。											

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	座間味村外来植物討伐事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-ア	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24年～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生物多様性の保全 Ⅲ-10-(1)	
事業内容	村内至るところに自生するが外来種「モクマオウ・ギンネム」等の抑制を目標に討伐し、観光地としての景観・安全性が保たれるよう事業の実施を図る。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	18,900	21,214	28,620	22,897	
		(b)予算現額	18,900	36,183	28,620	22,897	
		(c)増減額(b-a)	0	14,969	0	0	
		(d)繰越額	—			—	
	A. 計(b+d)		18,900	36,183	28,620	22,897	
	B. 執行済額		18,867	35,962	28,134	22,680	
	うち交付金充当額		15,093	28,769	22,507	18,144	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.4%	98.3%	99.1%	
予算の状況の説明		予算残額217千円については入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	委託事業の実施(2地区予定)	目 標	(委託事業の実施)	()	()	()	
		実 績	委託事業の完了				
	・人件費として24人活用(月)	目 標	(24人)	()	()	()	
		実 績	24人				
達成状況説明	・事業開始年度から4年目に入り幹線道路沿等のモクマオウについては大体の成果があり、今年度から道路より山間部に入り込んだ場所での討伐を実施。 ・人件費等には2地区において1742人使用(延べ)・・・月平均にすると248人(延べ)であり10日の平均作業で24.5人の活用ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	外来植物の討伐(村内一円) 討伐本数年間500本(モクマオウ木、ギンネム木)	目 標	()	(600本)	(600本)	(500)	()
		実 績		710本	517本	897本	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・これまでの事業実施でモクマオウ等の外来種は減少したと思われ、減少に伴う自然環境保全への効果はでているものと思われる。(しかし、実際に自生する外来種はまだ多くあり、展開ができない場所への対応が今後の課題である。) ・今回より道路より入り込んだ山間部への対応も展開。(今後の機械使用を抑えるため薬剤使用による作業を展開。実際足場の悪い場所に点在する木々については効果がある。)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・自然環境保全と観光地である本村の景観保持のため、村内至るところで野生化した外来種「モクマオウ・ギンネム木」繁殖の抑制を図るためH27年度においても討伐事業を展開した。しかし自生する外来種の数が多く実際には完全に除去できるものか今後の事業のありかたについては昨年より検討を行っているところである。 ・討伐を実施するにあたり山間部については侵入を行うためどうしても他木々等の影響も多少あることから今後の討伐については環境への影響も配慮が必要になってきている。	・討伐の実施について、今後は主に薬剤による対応を中心に行う。(作業量を最小限にとどめ今後も継続を行う) ・討伐の実施が難しい場所への対応は見送り事業展開の場所を最小限にとどめる。(討伐するにあたり山間部の景観や生態系を逆に考慮する必要がある。)
今後の取り組み方針		
昨年度より事業実施のあり方を検討しているところでありH28年度以降も事業を継続し薬剤による対応を中心に山間部の景観や生態系にはよく配慮し、必要程度に応じた討伐事業を実施する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22,680</td><td>22,680</td><td>18,144</td><td>4,536</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22,680	22,680	18,144	4,536	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22,680	22,680	18,144	4,536	0										
座間味村 22,680千円 ⇒ 委託料 22,680千円 ⇒ (有)中村建設 10,800千円 (阿嘉・慶留間地区) (有)座間味建設 11,880千円 〔 外来植物駆除にかかる委託業 〕 〔 外来植物駆除にかかる委託業 〕														
資金の 使途の 流れ、 検 査 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	指名競争入札により選定しているので妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は作業の実施規模を想定して行っており妥当である。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・使途については精算段階で検査を実施しており目的に即し、必要なものであったと判断する。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	座間味村						
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	環境衛生処理事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-イ	
担当部課名	総務・福祉課	事業実施(予定)年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	適正処理の推進		
					Ⅲ-10-(1)		
事業内容	本村では、可燃ごみと生ごみを別々に分けて収集しており、生ごみについては堆肥化を図り循環型社会の形成を図ってきた。しかし処理中に発生する臭気やそ族昆虫の発生により衛生面の問題があるため、生ごみを低コストかつ衛生的に処理ができる環境を構築する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,294	28,473			
		(b) 予算現額	26,334	30,334			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 12,960	1,861			
		(d) 繰越額	—	—			
		A. 計 (b+d)	26,334	30,334			
	B. 執行済額		17,334	29,098			
	うち交付金充当額		13,867	23,278			
	次年度繰越額		—	—			
	執行率 (％) (B/A)		65.8%	95.9%			
予算の状況の説明		新たな建屋の建築が必要となったため工事請負費1,861千円増額した。不用額1,236千円については入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	生ごみ処理機の設置	目 標	(1基)	(1基)	()	()	
		実 績	1基	1基			
	建屋の整備(建築面積 42.64㎡)	目 標	()	(1棟)	()	()	
		実 績		1棟			
達成状況説明	生ごみ処理機を座間味村クリーンセンター内に設置した。 平成28年3月に設置及び稼働となり、正常に生ごみの堆肥化ができた。 生ごみ処理機の設置場所として、建屋の建築を実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	座間味島の生ごみ処理体制の確立	目 標	()	(生ごみ処理体制の確立)	()	()	()
		実 績		生ごみ処理体制の確立			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	生ごみ処理機を設置し、生ごみ処理体制を確立したことでそ族昆虫等の発生を抑えられた。また、近くのビーチまで悪臭が臭わなくなったことで、観光客へ与えるマイナスイメージを軽減することができた。					

市町村名	座間味村							
平成 2 7 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	電子黒板等整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進			
事業内容	将来を担う児童生徒の人材育成及び学力・情報活用能力等の向上を図るため、各小中学校に電子黒板及びデジタル教科書を整備し、児童生徒の興味関心を引き出し集中力を高める、分かりやすい授業環境を整える。							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,731					
		(b) 予算現額	11,731					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	11,731					
	B. 執行済額		11,522					
	うち交付金充当額		9,217					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		98.2%					
予算の状況の説明		予算残額209千円については入札執行残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	デジタル教科書購入(国語、算数、理科、社会)	目 標	(主要4教科購入)	()	()	()		
		実 績	主要4教科購入					
	電子黒板購入 小学校4台	目 標	(4台)	()	()	()		
		実 績	4台購入					
達成状況説明	デジタル教科書を主要4教科分、電子黒板計4台(座間味校2台、阿嘉校1台、慶留間校1台)を備品一式と購入し、各校に整備した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(32年度)	
	全国学力・学習状況調査において全国平均との差を改善	目 標	()	(-3ポイント以内)	()	()	()	
		実 績		-0. 2ポイント 全国平均63.3点 本村平均63.1点				
	デジタル教科書対象学年(小学校1学年～6学年) ・主要4教科(国語、算数、理科、社会) ・他教科(音楽、図画、家庭、保健、書写等学年により必要な教科)学力の向上を図る。	目 標	()	(学力の向上を図る)	()	()	()	
		実 績		学力の向上を図った。				
	進捗状況説明	デジタル教科書及び電子黒板設置が11月設置(当初予定7～8月)とどちらも当初予定より遅れた。また、学力・学習状況調査テストは、毎年4月に行われる為、H27年度の結果に反映できなかった。そのため、H28年度以降の学力テストにおいて、全国平均との差が改善されていく見込みである。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	・座間味校2台、阿嘉校慶留間校ともに1台ずつ電子黒板を設置し、各校一式ずつデジタル教科書を設置した。 ・当初予定していた導入時期から大きくずれ込み、学力・学習状況調査テストでの結果に反映させることができなかった。	学力・学習状況調査テストの結果に反映できるよう、早期から授業での活用を努め、より活用出来るような環境を整備する。 児童の興味関心をより一層引き出すためにも、担当教師への活用方法の講習等を行い、活用方法を工夫する必要がある。
今後の取り組み方針		
電子黒板・デジタル教科書利活用の共通理解を各校同士で深め教師間において情報交換等行いながら、児童生徒の学力向上を目指す。 H28年度中には各中学校にも電子黒板及びデジタル教科書を購入し設置する。その際、小学校の先生も対象に受注業者より活用方法の提案等、話合いの場を設け、学力・学習状況調査テストでのよりよい結果が出るよう努める。		

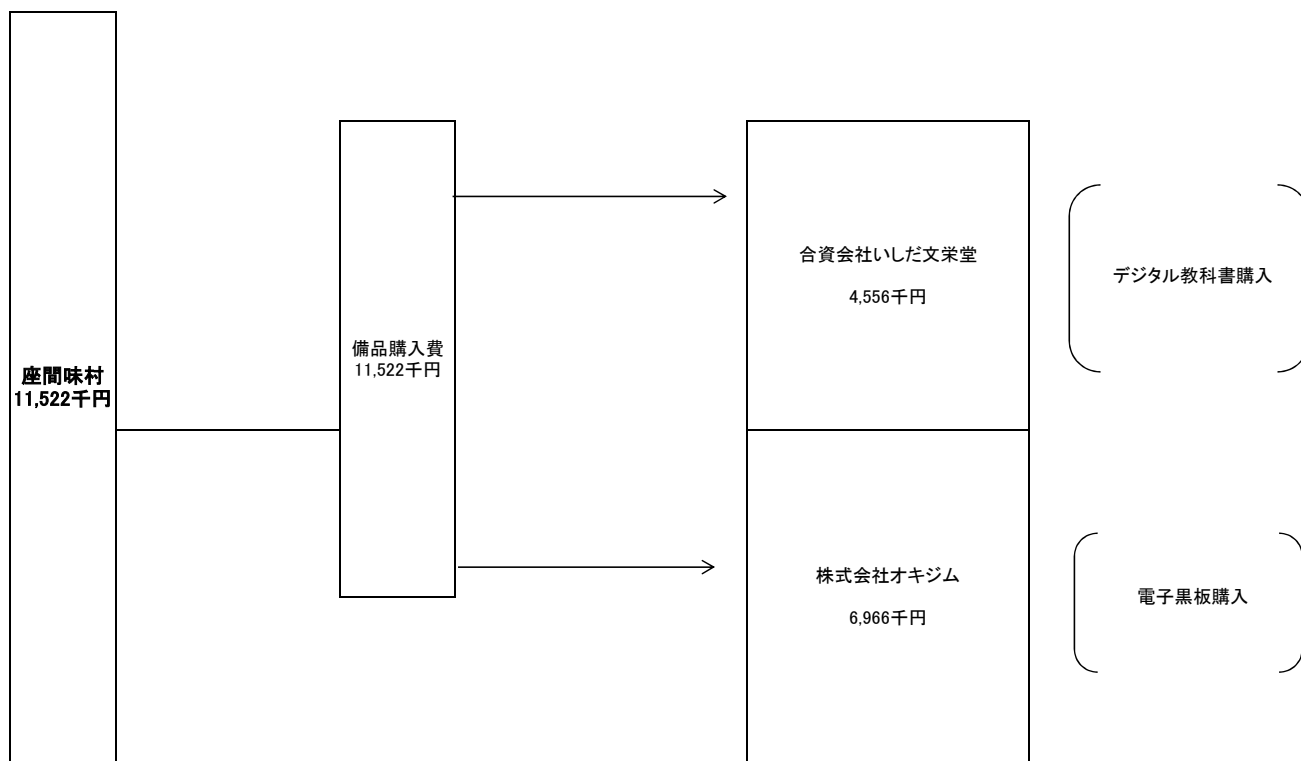
今後の取り組み方針

電子黒板・デジタル教科書利活用の共通理解を各校同士で深め教師間において情報交換等行いながら、児童生徒の学力向上を目指す。H28年度中には各中学校にも電子黒板及びデジタル教科書を購入し設置する。その際、小学校の先生も対象に受注業者より活用方法の提案等、話し合いの場を設け、学力・学習状況調査テストでのよりよい結果が出るよう努める。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額		交付対象 外経費
		市町村 負担金		
11,522	11,522	9,217	2,305	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・電子黒板は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・デジタル教科書の購入に関しては、随意契約であるが、教科書販売店の証明書通り座間味村の販売店はいしだ文栄堂に指定されているため妥当であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・不用額は事業費の2%以内であり、適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途については、積算段階で各校の希望する教科書を指定し、電子黒板についても目的に即し、必要であると判断した。